



9月定例市議会 市長所信

9月議会が9月6日から26日までの21日間の日程で開催されました。開会日には、議案審議に先立ち、当面する市政の重要課題につきまして、市長より所信が表明されました。今議会で表明された主な内容につきましては、次のとおりです。

幼稚園および保育所における保育料の第2子無料化

平成31年10月に国が実施する予定の幼児教育と保育の無償化を、県が前倒しとして、10月から現在第3子以降を対象とする保育料無料化の支援助成を第2子まで拡大することを受け、本市は、国の幼児教育、保育の無償化の枠組みの中で、第2子の保育料は所得制限を設けずに無料とします。

現在、本市では第3子以降の保育料はすべて無料としていますが、第2子についても子育て世代の経済的負担軽減を図るため、入所世帯における3歳から5歳児のうち、第2子の保育料無料化を本年10月から実施します。

今後、「子育てにやさしいまちづくり」実現のため、さまざまな子育て支援施策等の推進に取り組んでまいります。

「幼保一元化」と「子育て支援における学校施設の有効活用」

平成29年度に結成しました、子育て支援等に関するプロジェクトチームに

おいて、その推進を図るための具体的な方策について検討を重ねてまいります。

その検討結果を踏まえ、8月23日の阿南市総合教育会議におきまして、教育長をはじめ教育委員の皆さまから多様なご意見をいただきながら、今後の取組方針について協議を行った結果、まず、「幼保一元化」については、保育所と幼稚園が隣接しております宝田、新野、見能林のうち、宝田保育所と新野保育所をそれぞれ幼稚園と統合して「保育所型認定こども園」に移行し、平成31年4月の開園をめざすこととしました。

また、より安全で安心な学童保育の実現を図るため、学校施設を有効に利用した「放課後児童クラブ」の実施を推進していくこととし、平成31年4月から、「横見児童クラブ」を横見小学校内に移設して、運用面等の課題等を検証したいと考えています。

今後、就学前の保育および教育の質の確保と、仕事と子育ての両立を支援するための環境整備を総合的に推進します。

教育現場における安全対策

6月18日に大阪府北部を震源とする震度6弱の地震により発生したブロック塀倒壊の事故を受け、本市では、学校施設のブロック塀について緊急に点検を実施したところ、46の学校施設のうち24校で現行の建築基準法に適合していないなどの問題があることが判明しました。

このため、現在、各学校のブロック塀には注意を促すポスターを貼付し、児童、生徒への安全に対する指導を行うとともに、早急に対処すべき危険ブロック塀については既に撤去を行っています。

子どもの仕事(匠)体験ツアー

本市では、社会全体が一丸となって中小企業の振興による地域経済の活性化を図ることを目的に、平成29年10月に「阿南市中小企業振興基本条例」を

制定しました。

本条例第12条の規定に基づき、次代を担う子どもたちの職業意識の向上を図るための取組として、「子どもの仕事(匠)体験ツアー」を夏休み期間中に開催したところ、小・中学生およびその保護者を合わせて33人の参加がありました。

本ツアーでは、県内海運事業者の多くを占める内航海運業者から仕事内容等について説明を受けたほか、テレワークに代表される時間・場所にとらわれない「新しい働き方」の説明や工場見学等を行い、子どもたちの職業意識の向上を図りました。

参加した小・中学生からは、「初めて知った内容の仕事もあり、大変興味深く良い体験となった」また、保護者からも、「いろいろな職業・業種について説明を聞くことができて良かった」とのご意見をいただいたところであります。

今後、こうした中小企業の振興につながる取組を、関係機関等と連携しながら推進してまいりたいと考えています。

骨髄等移植ドナー支援のための助成事業

4月に県内市町村では初めて創設しました本助成事業は、本市に住所を有する方が、公益財団法人日本骨髄バンクが実施する骨髄バンク事業において、骨髄等を提供された際に、ドナーおよびそのドナーを雇用されている市内に事務所を有する事業所に対して、助成金を交付するものです。

先月、骨髄を採取し提供された市内在住の40歳の女性から、「骨髄移植ドナー等支援事業助成金」に係る、初めての交付申請がありました。

本市は、骨髄採取に伴う検査や入院等で、精神的・経済的な負担等から提供を断念される方が多くおられる中で、この助成事業を利用されることで、その負担が少しでも軽減されたのではないかと考えています。

今後、一人でも多くの方が骨髄等移植の実現を図る一助となるよう、本助成事業の普及啓発に努めてまいります。

自転車を活用したまちづくり

住民の健康増進や交通混雑の緩和、観光振興や環境への負荷軽減などさまざまな公共利益増進の面で効果がある自転車をまちづくりに活用しようとする機運が高まる中、8月9日には、「自転車を活用したまちづくりを推進する全国市区町村長の会(仮称)」の四国

ブロックの世話人である今治市の菅良二市長が来庁され、会への加入要請がありました。

本会は、自転車を活用したまちづくりを推進する自治体が連携し、交流すること、各地域が取り組む地方創生の後押しができるとの趣旨から設立をめぐっており、本市としても、本会の設立趣旨に賛同する旨を表明し、現在加入の手続きを行っています。

今後は、加入する全国の市区町村間で交流促進、情報共有や情報交換などが図られるとともに、四国ブロック内での連携による合同イベントの開催などが期待されます。

阿南市クリーンピュアの現状について

本市の環境行政の柱である、し尿処理施設「阿南市クリーンピュア」は、建設当時から環境にも配慮した施設として運転を開始し、大会議室・展示場・多目的グラウンドなどを備え、それらの施設を武蔵野大学の体験実習をはじめ、地域の活性化の場として利用していただいております。本年度20年を迎えようとしています。

引き続き、クリーンピュア運転期間の20年の延長を関係協議会等にお願したところ、現在では過半数の協議会等から同意をいただいておりますが、本年度末までには、すべての関係協議会等から同意をいただき、施設の健全な

運転・管理をめぐりたいと考えています。

今後とも、阿南市クリーンピュアが地域を代表する誇れる施設となるようより一層、住民サービスの向上に努めてまいります。

新たな「道の駅」整備事業の進捗状況

本市では、地域活性化の拠点や近い将来発生が想定されている南海トラフ巨大地震等の災害に対する防災拠点として、新たな「道の駅」の整備に向け、現在、基本計画の策定作業を行っています。

この基本計画の進捗状況ですが、昨年度に策定した基本構想の内容を踏まえ、道の駅整備をより一層具体化するため、学識経験者や市内の各種団体の代表者11人で構成する阿南市「道の駅」整備基本計画策定委員会を立ち上げ、それぞれの立場から忌憚のない自由なご意見をいただいているところであります。

また、市民の意見を計画に反映させるため、18歳以上の市民、1500人を無作為に抽出し「道の駅」に関するアンケート調査を実施し、現在、分析作業を行っています。

今後は、大正大学の教授による講演アンケート調査の分析結果や「道の駅」の防災拠点活用事例等の検証を行い、最終的に新たな「道の駅」建設候補地域を選定するとともに、防災機能

や導入施設の検討、施設の必要面積などを委員会で議論していただき、新たな「道の駅」整備基本計画として取りまとめたいと考えています。

大野公民館建設事業

昭和52年に建築された大野公民館は、老朽化が激しく、また耐震基準も満たしていないことから、平成19年に指定避難所を解消されました。

公民館は、社会教育活動の拠点のみならず、地域の防災拠点、避難所としての機能を果たさなければならぬことから、新たな避難所も併せて早急に整備する必要があります。現地での建替え計画を進めています。

新たに建築する公民館は、住民センターおよび学童保育施設を配置した複合施設であり、鉄骨造2階建て、建築面積約504平方メートル、延べ床面積は約866平方メートル、約50台分の駐車スペースを確保し、平時は、地域住民の生涯学習活動、コミュニティの場として大いにご利用いただけるよう整備を行ってまいります。

紙面の都合上、抜粋して要旨部分のみ掲載しています。全文をご覧になりたい方は、市ホームページをご覧ください。また、後日作成されます市議会会議録は市立図書館等で閲覧することができ